新宗連スローガン
信教の自由を守ろう
信仰心を広めよう
宗教協力を進めよう
世界の平和に貢献しよう

新宗教新聞

2023年（令和5年）
3月29日
第1140号

発行所
新日本宗教団体連合会
（略称 新宗連）
〒151-0053
東京都渋谷区代々木5丁目57番10号
電話（03）3468－5551（代表）
（03）3468－5588（編集）
大阪事務所 〒550-0006
大阪市西区江之子島1丁目8番21号111
電話（06）6443－7178

今、そして未来につなぐ信仰の力と光

新宗連
結成70周年記念事業 総括式典
円応教本部で開催

新日本宗教団体連合会（新宗連、石倉寿一理事長）は3月9日午後2時から、兵庫県丹波市の円応教本部・五法閣9階ホールで「結成70周年記念事業総括式典」を開催した。式典はYouTubeによるライブ配信も行い、会場での参列者以外にも、加盟教団代表者のほか、委員会・機関、総支部協議会、青年会役職者等が視聴を通じて参列した。（4面に式辞など要旨）

新宗連は2021（令和3）年10月17日に結成70周年を迎え、令和3、4年度の2年間にわたり記念事業を実施してきた。今回は一連の記念事業の掉尾を飾る式典として挙行した。

結成70周年特別委員会の江口陽一委員長（新宗連常務理事）の開会あいさつ。新宗連の歌『いのち輝く』を斉唱した後、新宗連の発展に尽力した歴代理事長をはじめ、新宗連結成50周年以降に逝去した先達功労者61人の顔写真を上映して慰霊顕彰し、参列した加盟教団の代表者らが献花と祈りを捧げた。

次に深田充啓名誉会長があいさつに立ち、先達功労者を追想するとともに、後進に対して、激励のことばを贈った。続いて日本宗教連盟の宍野史生理事長と国際宗教研究所の島薗進理事長、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会の戸松義晴理事長の3氏が来賓として祝辞を述べた。

小憩後、70周年記念事業始動時に理事長を務めていた岡田光央顧問が「未来への期待」と題してメッセージを贈るとともに、弥栄を祈願して一同で乾杯した。

70周年記念事業のダイジェスト映像が放映された後、新宗連結成70周年特別委員会委員の宮本泰克・新宗連青年会委員長と岡野孝行・新宗連青年会副委員長が、70周年を節目に、未来への継承の一環として行った、4つのスローガン再定義（解説文の更新）について発表。4つのスローガンの現代的意義の探求と各加盟教団や一人ひとりが自覚実践していくことを目指して、新宗連を象徴するスローガンをこれからも継承していくことを誓った。

この後、主催者を代表して石倉寿一理事長が式辞を述べた。石倉理事長は、先達の並々ならぬ努力により築かれた地盤を揺るぎないものにしていくために、人々の悩み苦しみが多様化する社会において、一人ひとりに丁寧に寄り添い、共に歩む姿勢を持って、神仏との出遭いの場を創っていくことの重要性を説いた。

そして結成70周年テーマ「今、そして未来につなぐ信仰の力と光」に基づき、これから信仰を継承する若者たちに対して、神仏の存在を感じ、信仰を糧として力強く人生を歩んでいけるように「あらためて、皆様と手を取り合い、使命と目標に向かって善進させていただくことをお誓いします」と締めくくった。この後、石倉理事長が式辞でふれた歌『3月9日』を斉唱した。

最後に世界平和祈願並びに東日本大震災、トルコ・シリアの地震災害はじめ自然災害犠牲者の慰霊と被災地の復興を願い、一同で黙祷を捧げた。

石倉理事長が式辞でふれた『3月9日』を斉唱

新宗連青年会
第10回沖縄慰霊平和使節団を派遣
各地で真心からの慰霊供養

新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、宮本泰克委員長）は2月17日から19日まで、「第10回沖縄慰霊平和使節団」（『栞』参照）を派遣した。

新型コロナウイルス感染症流行のため、約4年ぶりの沖縄慰霊平和使節団派遣となり、団員の中には、はじめて沖縄を訪問するもの、修学旅行で訪れて以来10数年ぶりという参加者もおり、あらためて沖縄戦の実相を学び、慰霊供養を行うプログラムを行った。

17日午後は那覇市の大慧會教団沖縄道場で結団式と学習会、その後、那覇市歴史博物館を視察した。

18日午前は糸満市摩文仁の国立沖縄戦没者墓苑において、「沖縄全戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」を執り行い、昼食をはさんで、午後は市内の「ひめゆり平和祈念資料館」と「ひめゆりの塔」、「白梅之塔」、最後に、那覇市の対馬丸記念館、「小桜の塔」をめぐり、慰霊供養と研修を行った。

最終日の19日午前、南城市の糸数アブチラガマを訪れ、立正佼成会沖縄教会会員の解説と案内で、視察。この後、慰霊供養を行った。

続いて行われた解団式では、伝えていくことの大切さとともに、戦後沖縄の課題や世界情勢にも触れ、宗教青年への期待が語られた。（2面に詳報）

「ひめゆりの塔」での慰霊供養（2月18日）

第34回教団人セミナー
私にとっての新宗連とは

新宗連は3月8日午後2時から、大阪市の会場とオンラインを併用して、「第34回教団人セミナー」を開催した。今回は「結成70周年記念事業総括式典」に合わせて前日に開催され、テーマは「私にとっての新宗連とは～未来へとつないでいくものは何か」。

新宗連活動の原動力である出会い、ご縁、それらを基盤とした対話、交流、研鑽、結束を再確認し、それぞれの新宗連に対する思いや何を未来につないでいくかについて大いに語り合い、探求し、考える機会とすることをねらいとした。

石倉寿一理事長のあいさつの後、企画委員会の田澤清喜委員長が導入として趣旨説明。自身が新宗連で各教団の先達から育てられた数々のエピソードを紹介し、交流の大切さを語り、「70周年以降、力を合わせ、さらに前に進んでいきましょう」と述べた。

この後、3つのグループに分かれ、活発な意見交換を行った。この中では、それぞれが新宗連に関わるようになった経緯や印象的なエピソード、さらに現在の各教団や新宗連の課題、次世代への期待など、多様な話題について熱く語り合った。

3グループに分かれ、熱く語り合う（3月8日）

トルコ・シリア地震―
AMDAに救援金を寄与

新宗連は2月6日にトルコ南部シリア国境付近で発生した地震の被災者救援活動として、トルコで医療活動支援を開始した特定非営利活動法人・AMDA（アムダ、菅波茂代表、本部＝岡山市）に、新宗連国際救援金より300万円を2月20日に寄託した。あわせて加盟教団に新宗連国際救援金への勧募を開始した。

AMDA本部による救援活動は、ホームページhttps://amda.or.jp/に随時掲載。

理事長談話を発表

2月16日には、石倉寿一理事長が「トルコ・シリア地震―犠牲者慰霊と被災地域、避難民への御見舞」談話（2面に全文）を発表し、犠牲者に慰霊の誠を捧げ、被災地で悲嘆と絶望に直面している人々に連帯の心を送り続けることを表明した。

《今号の紙面から》
〈2面〉新宗連青年会「第10回沖縄慰霊平和使節団」詳報、国際宗教研究所「苦難に立ち向かい、弱者に寄り添う宗教者」公開シンポジウム
〈4面〉新宗連「結成70周年記念事業総括式典」式辞など要旨
（次号発行は6月下旬の予定です）

令和5年度の事業計画案と予算案を承認
新宗連 第32期第3回理事会

新宗連は2月10日午後1時半から、東京・代々木の新宗連会館とオンライン併用による「第32期第3回理事会」を開催した。

理事会の冒頭、「祈りのことば」唱和と黙祷では、先達への感謝と世界平和、新型コロナウイルス感染により亡くなった人々の御霊の平安と感染の終息に加え、2月6日に発生したトルコ・シリア地震の犠牲者の冥福を祈り黙祷した。併せて、昨年12月25日に逝去した新宗連元理事で立正佼成会元理事長の酒井教雄氏の冥福を祈った。

報告事項では前回理事会（昨年10月6日）以降の新宗連本部、委員会・機関、新宗連青年会の活動状況や今後の予定、宗教界の動向などを報告した。その中で、新宗連結成70周年記念事業については、結成70周年特別委員会委員長の江口陽一常務理事が座談会、巡礼団等の各事業実施完了の御礼と、3月9日に円応教本部で開催する記念事業総括式典の概要を報告した。

続いて、石倉理事長がトルコ・シリア地震に対する「国際救援金」の寄託について緊急決済したことを報告。併せて勧募の提案をし、これを了承した。

この後、審議事項に移り、令和5年度事業計画案及び同予算案を審議。令和5年度事業大綱に基づき作成された計画では、令和4年度の活動方針と重点課題の内容を継承し、講座やセミナーの開催、普及啓発活動、青少年育成の活動などの再開を見据える内容を提案。審議の結果、原案通り承認した。また、宗教法人審議会委員の再任（継続）と、定時評議員会の開催及び議題について提案し、原案の通り承認した。

世界平和統一家庭連合（旧統一教会）をめぐる諸課題については、今後の新宗連の対応を検討する特別委員会の設置を提案し、意見交換を行った。審議の結果、信教の自由委員会を中核とし検討を重ねていく方針を承認した。

滔々抄
共に平和を祈る心と場を継承
結成70周年記念事業総括式典に思う

去る3月9日に円応教本部にて新宗連結成70周年記念事業総括式典が行われた。一昨年10月17日の記念式典はコロナ禍中であったため、全国加盟教団にライブ配信され、画面上で世界平和祈願の祈りをそれぞれの地で捧げた。今回の式典は、人数限定はあったが、ようやく一堂に会して共に平和祈願の祈りを捧げたことに新宗連の原点を感じた。

私が新宗連活動で最も印象に残っていることは、「8・14式典」での教団別礼拝である。高校生の時に「平和メッセージ」を発表したのが初めての式典参列だった。それまでは自教団の礼拝作法しか知らなかった私には、各教団代表の青年の皆様が、心を込めてそれぞれの礼拝様式で戦争犠牲者への慰霊と世界平和を祈願する姿に感動したのと作法に感心させられた。

その後、新宗連青年会主催の「ユースフォーラム」にも参加するようになり、さらに他教団の方々と出会い、それぞれの信仰活動などを語り合うことで、より宗教への理解が深まっていった。これまで多くの新宗連加盟教団の方々との出会いを通して、自分自身の信仰観を広く深くさせてもらった。

ただし、これもすべて直接顔を見て話すから出来た事だったとコロナ禍で気付かされた。三密を避けるのが感染予防の基本であったので教団活動も制限せざるを得ず、当然新宗連活動も制限された。

今回、総括式典で私が再確認できたのは、祈りだった。平和世界を実現するには、一人が心から平和を念じる祈りを続けることと、そして平和を念じる信仰者が一堂に会して共に祈りを捧げることを継続していくこと。これが未来につなぐ信仰の力と光ではないか。光は神仏から授かるだけでなく、信仰者から発する光の意味もあると思う。

しかし、この光を一人ひとりが内蔵していても発光するには、信仰というバッテリーが欠かせないと思う。次世代に信仰心を広め、共に平和を祈る心と場を継承していきたいと『3月9日』を歌いながら心に決意した。

今年こそ千鳥ケ淵戦没者墓苑で、多くの青年と共に平和祈願の祈りを捧げたいと願う。

（力久道臣・善隣教教主）

栞（しおり）

沖縄慰霊平和使節団　新宗連青年会が毎年「終戦記念日」前夜に開催している「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」（8.14式典）の祈りに基づき、沖縄の日本復帰をはさんだ1969（昭和44）年から73（同48）年にかけて「沖縄問題研究セミナー」を実施。翌74（同49）年からは東南アジアを中心に「青年平和使節団」を派遣してきた。2008（平成20）年からは、今一度国内における戦争犠牲者の慰霊供養について見つめ直す機会として、地上戦が行われ12万人以上の県民が犠牲となった沖縄で慰霊プログラムを実施。近年は「アジア青年平和使節団」と交互に派遣している。

解脱会伝記編纂委員会編
新版 解脱金剛伝 全3巻
A5判 上製函装 定価 各巻3000円（税込み）
世相善導、人心救済への道筋を説かれた解脱会会祖・解脱金剛（岡野聖憲）の生涯を全1549頁、3巻に収めた。会祖亡き後、その人格に触れて自らの内に深い帰依心を培い、世のため人のために生きるための学びの土台となる書。第1巻＝生誕から事業の失敗、大成を経て宗教の世界に目覚めていく前半生を描く。第2巻＝昭和4年に立教して以来、人心救済の道一筋に生き、教えの土台を完成するまでの事績を辿る。第3巻＝戦時下の厳しい時代の中で縦横無尽に教えを説き、救済活動を展開し、遷化されるまでの歩みを記す。
解脱会
〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地
TEL 03-3353-2191(代表) Fax 03-3353-3055

清文社
宗教法人の税務調査対応ハンドブック〔宗教法人税制と法制の解説を含めて〕
石村耕治 編
A5判3780円
平成25年からの新・税務調査手続にも対応！
宗教法人と税務調査についての基礎知識を中心に整理し、コンパクトに解説した、実務家・宗教関係者必携の一冊。
公益財団法人 日本宗教連盟推薦！
〒101-0047 千代田区内神田1-6-6
☎03(6273)7946 FAX03(3518)0299
http://www.skattsei.co.jp〈価格税込〉

芸術生活社
【芸生文庫】
高齢期を快く生きるための"人生の道しるべ"
老春（ろうしゅん）謳歌（おうか） 長生きの秘訣
御木徳近著
パーフェクトリバティー教団第二代教祖が、宗教家としての悟りと長い人生経験、多くの人との出会いから、高齢期を心豊かに暮らすための新しい生き方を提唱する。■定価700円（税込）
〒150-0047東京都渋谷区神山町16-1
電話03-3469-1153 FAX03-3465-6867

◉緑風出版◉
◉あなたは住民税非課税世帯になっていませんか？
住民税非課税制度活用術
太田哲二 1650円
◉住民税非課税世帯になれば住民税ゼロだけではなく、介護保険、医療費、保育、高等教育修学支援などの優遇措置がある。高齢者世帯・ひとり親世帯などは住民税非課税限度額以下になる可能性が高く、そうなればこうした優遇措置を受けられるのです。どうすれば活用できるかを伝授。
【現在Amazonへは出荷停止中です】
〒113-0033 文京区本郷2-17-5/税込
☎03(3812)9420 www.ryokufu.com/

佼成出版社
悲しいときに笑顔を見せるのは馬鹿です。
悲しいときにわんわんと泣けるのが阿呆です。
禅は、馬鹿になるな！阿呆になれ！と教えています。
さあ、あなたはきょうから阿呆になりましょうよ。
坐らぬ禅
4月で逝去から1年――。「絶筆」作品、ここに刊行！
ひろさちや 著
四六判／208頁 定価1980円（税込）
〒166-8535 東京都杉並区和田2-7-1
☎03(5385)2323 FAX03(5385)2334
https://books.kosei-shuppan.co.jp/

白馬社
合掌ができない子どもたち
浄土真宗本願寺派福賢寺住職 三上章道
四六判 定価1260円
「本願寺新報」の編集長を二十年に亘って務めてきた著者が、「合掌ができない子どもたちとの出会いを契機に、戦後の日本社会が戦慄すべき『薄縁社会』となったプロセスを追い、その原因が宗教心の喪失にあることを解き明かす。そして新たに現出した、同根の原因があることも洞察していく。日本人の心の問題にするどく迫り、根本的解決への提言をまとめた必読書。
〒612-8469 京都市伏見区中島河原田町28-106
TEL 075(611)7855 FAX 075(603)6752
http://www.hakubasha.co.jp 価格税込

ハーベスト社
東日本大震災後の宗教とコミュニティ
星野英紀・弓山達也編 本体価格7200円＋税
東日本大震災後の福島県いわき市と相双地域のコミュニティの再建における宗教の役割（避難場所としての宗教施設、宗教教団や宗教者の動向など）を解明する。
療術から宗教へ
世界救世教の教団組織論的研究
隈元正樹著 本体価格3000円＋税

緊急出版 カトリック大阪教区神父 西山俊彦
平和憲法が平和への道、改憲は戦争への道
―わたしたちが核戦争の加害者とならないために―
世界が平和ボケにあろうとも、「時すでに遅し」と後悔しないために、平和憲法の真価を見直す素養まで捨てるわけにはいかない。
●1400円＋税 四六判並製
248頁 ISBN 978-4-286-19691-6
文芸社
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1
☎03-5369-2299 FAX.03-5369-3066
https://www.bungeisha.co.jp
書籍のご注文はお近くの書店またはブックサービス☎0120-29-9625、ネット書店まで

第10回沖縄慰霊平和使節団

4年ぶりの派遣、各所で慰霊と学び

連宗青 新宗連青年会

新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、宮本泰克委員長）は2月17日から19日まで「第10回沖縄慰霊平和使節団」を派遣した。

17日午後2時半から、那覇市の大慧會教団沖縄道場で結団式。宮本泰克委員長があいさつに立ち「沖縄慰霊平和使節団の派遣は4年ぶりです。新型コロナウイルスの感染防止対策に引き続き留意しながらも、徐々に対面での活動が再開できるようになってきました。久しぶりに皆さんで、ご一緒に慰霊とご修行をさせていただきましょう」と述べた。

この後、「御本尊」に向かい全員で参拝した後、参加者が自己紹介と今回の使節団への思いなどを語った。学習会に移り、新宗連青年会の隈元正樹事務局長が沖縄慰霊平和使節団の経緯と意義、沖縄戦の概要について、解説した。

翌18日は午前10時半から、糸満市摩文仁の国立沖縄戦没者墓苑において、「沖縄全戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」を執り行い、教団別礼拝を行った。昼食をはさんで、午後は市内の「ひめゆり平和祈念資料館」と「ひめゆりの塔」、続いてひめゆり学徒隊と同じく従軍看護にあたって犠牲となった女学生を慰霊供養する「白梅之塔」を参拝した。この後、那覇市の対馬丸記念館では、沖縄戦直前に数百人の学童と疎開者が犠牲となった対馬丸の悲劇を学び、隣接する「小桜の塔」で真心からの慰霊を行った。

国立沖縄戦没者墓苑での黙祷（糸満市摩文仁）

最終日の19日午前10時、南城市の糸数アブチラガマを訪れた。このガマ（自然洞窟）には沖縄戦時、地元の住民が避難しただけでなく、陸軍病院としても使用され、数百人が悲惨な状況で暮らし、多くの人が亡くなった。ガマ内は、立正佼成会沖縄教会から平和推進室の仲村尚子氏をはじめ、渉外部長、青年部メンバーが同行し、解説と案内をした。最後に、慰霊碑前で、各地から沖縄戦に参加し、それぞれふるさとを思いながら亡くなった戦争犠牲者の御霊に唱歌「故郷」を斉唱して捧げ、代表献花を行った。

糸数アブチラガマの研修（南城市）

続いて行われた解団式で、参加者からは「初めて沖縄を訪問した。ひめゆり平和祈念館では涙が止まらなかった」「教団の青年を代表して参加させていただいた。今回の学びを伝えていくことが自分の使命」などの感想が披歴された。立正佼成会沖縄教会の渉外部長からは「沖縄の戦後はまだ終わっていない」「政治が行き詰っている今こそ、宗教者、青年が未来を切り開いていってほしい」などと青年らへ期待が語られた。

東日本大震災から12年―

犠牲者慰霊と被災地復興を祈る

3月11日、東日本大震災から12年を迎えた。東北に本部を置く新宗連加盟教団でも同日慰霊と復興を祈る祭事が執り行われた。

大和教団（保積秀胤教主）は3月11日午前10時半から、仙台市の大和神光殿で、「東日本大震災十二周年追悼慰霊祭並復興祈念祭」を保積志弘嗣親の斎主のもと厳粛に執行した。

海川山野の神饌が献供され、斎場に犠牲者の御霊を迎え、「幽冥主宰大神様」の「誘いとお救い」を頂き、慰霊と復興への祈りが捧げられた。

斎主玉串拝礼の後、参列者による玉串奉奠が続いた。

祭儀後、保積嗣親が昨年11月、石巻市の震災遺構・大川小学校での新宗連結成70周年記念事業「戦争犠牲者、自然災害犠牲者慰霊供養（巡礼団）」に参列し、慰霊と鎮魂を行ったことを報告。

「大震災からいつしか12年という歳月が流れたが、数多の方々が犠牲となられたことを決して忘れてはならない」と述べた。

松緑神道大和山（田澤清喜教主）は3月11日、被災地の道場や支部において「東日本大震災慰霊祈願礼拝」を執り行った。コロナ禍が続いているため、参列者が限定されたが、少人数でも一堂に会しての礼拝となった。

保積嗣親を斎主に厳粛に執行

弱者に寄り添う―4氏が発題

国際宗教研究所 公開シンポジウム

国際宗教研究所（島薗進理事長）は2月18日午後1時から、「苦難に立ち向かい、弱者に寄り添う宗教者―触れ合いの現場から見えてくるもの」をテーマに、オンラインで公開シンポジウムを開催した。

国際宗教研究所の三木英常務理事（大阪国際大学教授）の趣旨説明に続き、4人の宗教者が発題。はじめに東海林良昌・浄土宗雲上寺住職が、自坊での介護者カフェの取り組みを発表した。公的機関や専門家との橋渡しと連携を主として、専門知識が無くても取り組めること、草の根の支え合いと情報交換の場をつくるとともに、僧侶や寺族が介護体験や死別の悲嘆を受容できるという特色を解説。浄土宗寺院に適した活動として宗派内においても拡大に努めていることを紹介した。

工藤真弓・上山八幡宮禰宜は、東日本大震災で被災した地元の宮城県南三陸町で一般社団法人「復興みなさん会」理事も務めるなど、社務所を開放して行った子どもたちとの五行歌作りや、紙芝居伝承活動、絵本作り、椿のみちづくり（避難路）など、自らが関わった様々なまちづくり、復興活動を紹介。

この中で伝承キリコ（神棚かざり）の型紙が奇跡的に無事だったこと、後にキリコ体験教室を続ける中で「切り抜かれて無くなる部分があればこそ見えてくる大切なものがあることに気付いた」ことを述懐し、東北から発信していく「祈りのかたち」について解説した。

浄土真宗本願寺派僧侶の八幡真衣・本光寺衆徒は、一般社団法人「えんまん」の代表理事を務めながら、自坊で展開する地域子ども食堂や料理教室、プチ縁日など、子育てをする母親の苦悩から、誰もが気軽に集える場所を目指した寺院の活用方法を紹介。一人ひとりが主役となり、主体的に運営する中で育まれる支え合いや参画者の拡大等の実績を解説した。

天理教の安井剛・本睦分教会長は、人から信頼してもらえる信仰者になるために「神様の守護を現わせる人」「人格者・誠真実の人」「社会貢献している人」という3つの条件を自らに課していることを伝えた上で、これまでに実践した「虐待などの抑制を目指す子育て支援」「火の用心&夜警」「災害支援」「生活困窮者自立支援」などの活動を紹介。難儀な状況にある人に寄り添う活動を続け、自己の信仰に基づき、本当の「たすかり」とは何かを探求し、自問自答しながら活動してきた体験を経て、「本当に人がたすかる姿は、たすかりを求めていた人が、人をたすけたいと思える心に変わっていくこと」と述べた。

この後、コメンテーターの丹羽宣子・中央学院大学非常勤講師を交え、三木常務理事が司会となりパネル討論に移った。苦難にある人々へ寄り添っていく姿勢の背景にある信仰や教えなどを確認した。

パネル討論では、寄り添いの背景にある信仰などを確認

新宗連 総支部協議会

結成70周年総括式典受け入れ体制を確認

近畿 総務会

近畿総支部（藤井庸佐会長）は2月20日午後1時半から、大阪市内のホテルとオンライン併用で第32期第2回総務会を開催した。

冒頭、石倉寿一新宗連理事長と藤井庸佐会長があいさつ。この後、2月10日の新宗連理事会並びに13日の全国総支部事務局長連絡会に関する諸報告、下半期の各府県協議会活動、青年会活動の報告を行った。

併せて、3月9日の「結成70周年記念事業総括式典」概要の説明と、当日の受け入れの協力体制について確認した。また、令和5年度の活動計画について、近畿総支部総会の日程及び会場について協議し、今後のスケジュールを確認した。

閉会にあたり鉢呂神龍相談役があいさつし、「70周年を迎えるにあたり、50周年の際、記念シンポジウムの受け入れを近畿総支部が行ったことを思い出し、一つの目標に向かい皆で協力し合ったことが今でも心に残っている。総務会や事務局の顔ぶれも変わり、新たな時代に向かって継承されていくことを心から願い、協力していきたい」と結んだ。

トルコ・シリア地震―犠牲者慰霊と被災地域、避難民への御見舞

新宗連理事長談話

2月6日にトルコ南部シリア国境付近で発生した地震の犠牲者は、4万人を超えました。現在も救援活動、捜索活動等が続けられておりますが、日々犠牲者の数が増えていることに心を痛めています。この地震により犠牲となられた方々に慰霊の誠を捧げ、謹んで御冥福をお祈りいたします。

また、家族や家屋、友人などを失い、厳しい環境のもとで避難生活を続けておられる方々に衷心よりお見舞いを申し上げます。

私たちは、世界平和とすべてのいのちを尊ぶ世界の実現を目指して、あらゆる自然災害で犠牲となられた方々の追悼、被災地の復興祈願、新たな災禍の抑制等も祈り続けてまいりました。

今回、また新たな災害に遭遇したことは誠に遺憾ですが、これからも祈りを続け、神仏の御心に沿って、苦難にある人々に寄り添い、手を差し伸べられるよう努めてまいります。

甚大な被害により、復興への道程も長期化が予想されています。私たちは、祈りを共にして協力し合い、被災地で悲嘆や絶望に直面し、希望を失っている人々に連帯の心を送り続けます。

令和5（2023）年2月16日

新日本宗教団体連合会
理事長　石倉　寿一

第40回庭野平和賞

ラジャゴパールP.V.氏に

非暴力、ガンディー精神を実践

庭野平和財団（庭野日鑛名誉会長、庭野浩士理事長）は2月16日、京都市内のホテルで記者会見を行い、「第40回庭野平和賞」をインドの平和活動家ラジャゴパールP.V.氏（74）に贈呈することを発表した。

庭野平和賞は、宗教的精神に基づく世界平和の貢献に顕著な個人や団体に贈られるもの。

ラジャゴパール氏は1948年、南インドのケーララ州生まれ。父親がマハトマ・ガンディーと共にインド独立運動に加わった活動家で、幼少期からガンディー哲学を基盤とする共同体で教育を受け、72年には強盗や誘拐が頻発する地域で非暴力、平和的手段による武装盗賊団の武装解除や彼らの社会復帰への援助に貢献。その後、青年リーダーの育成や非暴力による社会活動を展開してきた。

また、1989年、25万人の小作農民が参加する、エクタ・パリシャド（インド国内に2千拠点）という非営利団体を創立し、2007年と12年には先住民や不可触民の権利、環境保護や土地改革を政府に訴えるため、インド各地の農民数万人による大規模な徒歩行進を率い、成功に導いた。非暴力と正義が体現された、誰も取り残すことのない世界の実現に向け、ガンディーの精神を受け継いだその活動はインド国外へと広がりをみせている。

インドの平和活動家ラジャゴパール氏©Ekta Parishad

贈呈理由として、マハトマ・ガンディーの思想を現代に受け継ぎ、貧困に苦しむ人々に寄せる深い慈愛と、非暴力に徹した社会変革への活動により、虐げられた多くの人々の救済と自立を成し遂げた点を挙げている。

庭野平和賞受賞の決定を受けて、ラジャゴパール氏は「多くの地域では、人々が非暴力の思想を真剣に取り入れようとしたことはなく、今も戦争と暴力が平和を勝ち取る手段であると信じられている」、「『非暴力』という手段を深く理解し、エゴを交えずに正しく用いさえすれば、非暴力は世界のあらゆる場所で、暴力に満ちた状況を改善する強力な手段になり得る」、「平和で暴力のない社会の実現に向け、さらなる取り組みを続けていくことをお誓いいたします」と述べた。

贈呈式は5月11日に行われる。

トルコ・シリア地震支援など実施

WCRP日本委 第43回理事会

世界宗教者平和会議日本委員会（WCRP）日本委員会（戸松義晴理事長）は3月14日午前11時15分から、京都市北区の賀茂別雷神社（上賀茂神社）を主会場にオンライン併用方式で「第43回理事会」を開催した。

京都市の加茂別雷神社で開催された理事会

開会に先立ち、上加茂神社の田中安比呂宮司が歓迎のあいさつ。続いて戸松義晴理事長が開会のあいさつを述べ、議事に移った。

審議事項では、トルコ・シリア地震への対応や、ウクライナ情勢に対する支援などについて審議。トルコ・シリアへの支援については、シリア国内で支援活動を行う2つの市民団体に緊急支援を行ったことを報告。今後は、災害対策タスクフォースが主導して支援先を検討し、継続して支援を実施していく。また、ウクライナ支援については、昨年9月に開催した「諸宗教平和円卓会議」の有効性を訴え、今年も開催する方向で開催方法や開催場所などについて活発な意見交換が行われ、開催に向けて進めることを申し合わせた。

今年5月に広島で開催される「G7（主要7カ国首脳会議）」に合わせて、5月10日に2部構成で「宗教者による祈りとシンポジウム」を開催し、核兵器のない平和な世界に向けて祈り、宗教者の役割と取り組みを再確認し、メッセージを発信していくことを確認した。その後、各タスクフォース、部会の活動を報告した。

平和大学講座―戦争を超え和解へ 宗教者の役割問う

午後2時からは「戦争を超え、和解へ―諸宗教は訴え行動する」をテーマに、「平和大学講座」を開催した。上賀茂神社を主会場としたオンライン併用方式で、約100人が参加した。

筑波大学名誉教授の塩尻和子氏が「人類が生き残るために『敵を愛すること』は可能か」をテーマに基調発題。塩尻氏はロシアによるウクライナ侵攻に触れ、「終末時計が30秒進んで人類絶滅まで1分30秒となった状況で、諸宗教が永続的な平和を作り上げることに貢献できるかを考えた」と述べた。

宗教は基本的に「魂の救済」を掲げており、積極的に平和を作り出すことの必要性を教えているとした一方で、宗教が生き残るためには社会との密接な関係が必要で、「その社会性という性質が、暴力や戦争に深くかかわってしまう原因である」と述べ、宗教と暴力の関係性を説明した。また、世界各地でさまざまな紛争が続いており、多くの市民が命を落としていることは命の価値に差異が生じている状況だとし、「人の命の価値に差異が存在することは、宗教と暴力の連鎖を断ち切ることを困難にしている」との見解を示した。

その上で、宗教が平和に貢献するために必要なこととして、「宗教間や文明間で対話を実行し続け、国際政治や環境問題においても多宗教間で互いに理解し合い、協働することが求められている」と述べた。

続いて、パネルディスカッションでは、東洋大学名誉教授で平和研究所所長の竹村牧男氏がコーディネーターを務め、アジア宗教者平和会議（ACRP）シニアアドバイザーの神谷昌道氏、清泉女子大学教授の松井ケティ氏、早稲田大学留学センター講師の田辺寿一郎氏がパネリストとして登壇した。

パネリストらは塩尻氏の基調講演を受け、「平和のための宗教者の役割」について、それぞれの視点から宗教者にできる役割や、平和を作り出すこと、行動することの重要性について見解を述べた。

最後に質疑応答が行われ、参加者からの質問に答えるなど活発に意見交換を行った。

【諸会議 報告】

宗教法人運営をめぐる諸課題について情報・意見交換

宗法研

新宗連宗教法人研究会（宗法研、仙波達治座長）は1月25日午後3時半から、東京・代々木の新宗連会館とオンラインの併用により、第32期第3回幹事会を開催した。

宗教法人運営をめぐる諸課題や、新型コロナウイルス禍における各教団の活動状況などについて、情報・意見交換を行い、来年度事業の推進について協議を行った。

今後の事業推進を確認・協議「8・14式典」は引き続き検討

新宗連青年会

新宗連青年会（宮本泰克委員長）は1月27日午後1時半から、令和4年度第5回委員会を新宗連会館とオンライン併用で開催した。

2月に派遣する「第10回沖縄慰霊平和使節団」について最終確認を行った後、4月に令和5年度第1回（拡大）委員会と併せて北海道で開催する「ユースフォーラム2023」について、受け入れの新日本宗教青年会北海道連盟から準備状況の報告があり、意見交換を行った。

続いて今年8月に開催の第58回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典（8・14式典）」について協議を行った。新型コロナ禍は収束に向かいつつあるものの、受け入れ態勢が整っていないこともあり、今回は外部の来賓については、引き続き配信を通して参加いただくよう案内すること、基本方針を2月の新宗連理事会で報告した上、4月の拡大委員会で詳細を詰めることを申し合わせた。

その他、来年度以降の活動について、意見交換が行われた。

記念事業総括式典の会場視察 式典の開催内容について協議

70周年特別委

新宗連結成70周年特別委員会（江口陽一委員長）は第24回委員会を1月24日午後1時半から、兵庫県丹波市の円応教本部の五法閣で、第25回委員会を2月14日午後1時半から、新宗連会館とオンライン併用で、それぞれ開催した。

第24回委員会は円応教本部を訪問し、3月9日の結成70周年記念事業総括式典の会場となる五法閣9階ホールで協議を行った。今回は式典当日に映像配信を担当する、株式会社ノースライトスタジオの花本彰氏らも参加し、会場内の設備等の確認も行った。

協議の結果、式典の司会を柿澤伸光委員が担当すること、最終のリハーサルを式典当日の11時から行うことなどを決定した。

第25回委員会では、記念事業総括式典の進捗状況を確認し、細部まで意見交換を行った。また、70周年記念誌の進捗状況も確認され、3月9日の総括式典の様子を掲載するため、当初3月末日発行の予定であったが、4月以降に発刊することを確認した。

令和5年度事業計画案に基づき、予算原案を協議

会計委

新宗連会計委員会（中村史郎委員長）は1月31日午後1時半から、オンラインで第32期第2回会計委員会を開催した。

1月23日開催の事業計画策定会議で検討された「令和5年度事業計画案」に基づき、同年度予算案について協議。2月10日開催の理事会へ提出する予算原案を作成した。

特別委員会の概要や進め方について協議

信教委

新宗連信教の自由委員会（信教委、鈴木裕治委員長）は2月21日午後1時半から、第32期第6回委員会と、3月15日午前10時から、第1回「信教の自由」特別委員会を新宗連会館とオンライン併用で開催した。

第6回委員会では、報告事項に続き、2月10日の第3回理事会で決定した、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）問題をめぐる新宗連の今後の対応について検討する特別委員会の設置を受けて、同委員会の概要や進め方について協議した。

また、第1回「信教の自由」特別委員会では、同委員会の概要について、4月24日に開催を予定している懇談会の内容等について協議し、必要に応じて他の委員会とも協働して進めることを確認した。

年度事業の推進について協議 他の委員会・機関とも連携

政治委・憲法研

新宗連政治委員会（政治委、力久道臣委員長）と憲法研究会（憲法研）は2月22日午前10時から、第32期第4回政治委員会と第61回憲法研究会の合同会議を新宗連会館とオンライン併用で開催した。

政治、憲法をめぐる状況について報告を行った後、来年度事業の推進について協議。課題に応じて他委員会、機関と連携して取り組んでいくことを確認した。

急がず、息まず、共に修行精進

教団創立85周年記念式典　立正佼成会

庭野会長は法話の中で、日蓮聖人と法華経の教えや詩人の言葉を引用して説いた

立正佼成会（庭野日鑛会長）は3月5日午前9時から、東京・杉並の本部大聖堂で「教団創立85周年記念式典」をライブ配信（会員限定）と併せて開催した。

式典では、庭野光祥次代会長を導師に読経供養、庭野日鑛会長が啓白文を奏上。85年の歩みを振り返り、創立百周年を展望し、布教伝道を実践していくことを表明した。

國富敬二理事長の教団代表あいさつの後、庭野会長から教会役員功労者189人と会員特別功労者211人の表彰が行われ、受賞者代表が体験説法を行った。

続いて来賓祝辞を菅野日彰・日蓮宗管長（大本山池上本門寺貫首）が述べた。菅野管長は、自身が庭野会長と立正大学で同学であったこと、50年前に佼成病院に入院した際、知人が同病院の医師だった、病院や本部で朝の「おつとめ」に参加したことなど、立正佼成会との「ご縁」を披露した。

また、自身がインドの霊鷲山を参拝した際、2500年の時空を超えて、釈迦が説法している場に自身も座している思いを強くしたとの体験を語った。釈迦の仏性と舎利弗の仏性とのつながりを説いた法華経の「唯仏与仏」を引き、「まさに『唯仏与仏』の体験であり、法華経の一文字一文字が釈尊の生きた言葉であると実感した」、「その感動は私の安心（あんじん）の瞬間であり、このことを人々に説いていかなければならないと誓った」と述べた。

続いて庭野会長が登壇し、「法話」を述べた。詩人の木村和夫氏の詩「習慣」から「人生は習慣の織物である」を引き、「人間として大事なことを習慣づけて生きていくことが大切です」と説いた。

また、日蓮聖人の本能的・自然に信心するのが本来の信仰であるとの教え、仏教の肝心は法華経にあり、その修行は「常不軽菩薩品」に説かれているとして、「釈尊の本懐は人の道を教えることで、人間らしい人間になるための心掛けが重要」、「常に出会う人に合掌礼拝していた開祖さまに倣（なら）い、その精神を体解して身に付けていくことが大切です」と説いた。

さらにドイツの詩人ゲーテの「星辰（せいしん）の如く、急がず息まず（やまず）」を引き、「この教えをずっと後世にお伝えできるように、皆様と共に急がず、息まず、これからも精進させていただきたい」と締めくくった。

この後、3月20日に85歳の誕生日を迎える庭野会長と佳重夫人に、佼成育子園の園児から花束が贈呈され、満場の拍手が送られた。

すべては生かされている

開教85周年記念式典　思親会

飯島会長は自己中心的な考えをあらためることなどを説いた

思親会（飯島法道会長）は2月11日午前11時から、神奈川県伊勢原市の思親大宮殿・大孝堂で「開教85周年記念式典」を、井戸清行開祖の親族も列席し厳修した。

第1部では、婦人部・青年部による献花・献香の儀の後、飯島法道会長と式員による「ご供養」が、参集した会員と共に読経にて執り行われた。第2部では、会員代表が、開祖の教えに感動し先祖供養して功徳を頂いた体験談を披露した。

飯島会長が「ご親教」。法句経などを引きながら、自己中心的な考えで善悪を判断するのでなく、釈迦の物の見方、考え方にあらためることや、法華経の功徳、他者の幸せのために真剣に祈ること、また会員代表法話の徳積みの大切さについて解説した。そして「すべてのいのちは大いなる秩序や法則、調和の中で生かされていることに気付ける教えこそが、妙法蓮華経の神髄なのです」と説いた。

人様に喜んでいただく働きを

第86回教主誕生祭　円応教

還暦の際に羽織った陣羽織を25年ぶりにまとった深田教主と静子夫人

円応教（深田充啓教主）は2月5日の午後1時から兵庫県丹波市の本部本殿で「第86回教主誕生祭」を執り行った。新型コロナウイルス感染予防対策として、参拝者には入場前に検温、手指の消毒、マスクの着用を徹底した。

深田充啓教主に続いて責任役員が入場した後、全信者の健康、新型コロナウイルス感染症の早期終息、ロシアによるウクライナ侵攻早期終息を祈念する「おつとめ」を黙唱で行った。

中村史郎理事長が「奉祝の言葉」で、深田教主による信者の導きと、益々の健康と多幸を祈念し、金森智子教会長会会長と、塩見よ志子布教師会会長が記念品の目録を贈呈した。

続いて奉祝演芸担当の島根教区、岡山1・2教区、広島教区からお祝いのビデオメッセージと、深田教主の足跡をたどった映像が披露された。

還暦を迎えた際に羽織った陣羽織を25年ぶりにまとった深田教主と静子夫人が登壇し、少年少女から花束が贈呈され、信者全員で「ハッピーバースデイ」を斉唱した。陣羽織は還暦を迎えた新宗連加盟教団の代表らが順次羽織ってきたもの。

深田教主は「御親教」で、まず元気で86歳を迎えられたことへの謝辞に続き、「教典214項」について解説。深田千代子教祖の信仰について触れ、「いつも人様を喜ばすお世話をする、そのために『世の中の道具』になろうと伝えている」と述べた。

また、「心の筋道、筋ということは真っすぐであることが基本。誠のまま、真実のままです。それを私たちが間違えるため、悩みや、苦しみ、煩いを作ってしまう」とした上で、「どうか人様に喜んでいただく働きに務め、楽しく喜びのある毎日になるよう、努力、精進してまいりましょう」と呼び掛けた。

「教主様御誕生奉祝歌」を演奏し、式典を終了した。

み教えと在家先祖供養に邁進

御開祖さま御生誕祭　大慧會教団

石倉会長が「感謝・慶白文」を奉上した後、石倉会長を導師に「大乗経典」を奉読

大慧會教団（石倉寿一会長）は3月3日午前11時半から、大阪府堺市の本部本殿講堂で、「法明さま」（石倉保助師）125年、「普明さま」（石倉マツヱ師）118年の2師の開祖生誕を祝う「御開祖さま御生誕祭」を執り行った。

開式宣言の後、点鐘、礼拝、玄題三唱、君が代・会歌斉唱に続き、御開祖・法明さまと普明さまの遺影が飾られた内陣の御前で、石倉会長が「感謝・慶白文」を奏上。「御開祖さまの御遺志に添い、会員一同、御遺志を受け継ぎ世の人々にみ教えを説き広め、先祖供養を実践し、真の世界平和を実現できるようにお誓い申し上げます」と述べた。

石倉会長を導師に「大乗経典」を奉読した後、会員による「体験功徳決定」が行われ、御開祖さまから頂いた「お導き」について体験談が語られた。

次に石倉会長が「ご法話」に立ち、法明さまが生前に大慧會教団開教までの道のりを書いた本「私の生い立ち」の一部を紹介。開教から72年目を迎えたいま、今年の決定（けつじょう）でもある『皆能く随順して不退転の法輪を転ず』にあるように、み教えに帰依し、懺悔、精進し、み教えを広めるという決定を法明さま、普明さまに届けなければならない。そうすることで私たちも様々なご慈悲やお手配を頂けるのではないかと思います」と述べた。そして「まだ難しい時代ですが、御開祖さまの御遺志を継ぎ、み教えを説き、在家先祖供養に努め、邁進していくことを誓わせていただきたいと思います」と力強く説いた。

会歌斉唱、玄題三唱し休憩の後、御開祖さまに奉納する「奉納清興」に移った。会員による歌、詩吟、合唱、民謡などが奉納された後、開祖愛唱歌の「箱根八里」を全員で合唱して、式典を終了した。

第45回御昇天奉祝大祭
「生命の威光様」拝受

奉納演芸と成人式も開催　大法輪台意光妙教会

大法輪台意光妙教会（星野政和会長）は1月13日から15日まで3日間にわたり、福岡県太宰府市の本部で「第45回御昇天奉祝大祭」を開催した。全国から参集した会員らが、創始者「大日如来様（江口ヤエ師）」に感謝と帰依の思いを新たにした。

13日の式典は午前10時半に開式。初めに「たらちねのご慈悲様」斉唱と「なむあみだぶつ」三唱が行われた。

この後、大祭委員長の星野政和会長があいさつ。大祭を迎えた喜びを述べた後、1月の御昇天奉祝大祭から12月の女人供養までの1年を通して与えていただける多種多様な「ご慈悲」について触れ、「慈悲をひとつでも多く拝受させていただき、菩薩への実りの道を、そして往生という即身成仏への慈悲を踏みしめ歩ませていただきましょう」と述べた。

焼香、開扉に続き、龍誓奏楽と地搗き歌囃（はやし）を奉納。「生命の威光様おでまし」に移り、「生命の威光様」（聖水）を厳かに迎え入れた後、正面の御法座の幕が開かれ、「大日如来様おんみたま様」（座像）が姿を現すと、参列者の「なむあみだぶつ」の唱名念仏が堂内に響き渡った。

「感恩詞奉上」に続き、「大日如来様」の「御真言」（録音）が流されると、参列者は頭を深く垂れ、静かに聞き入った。幕が閉じられ、「大日如来様」退座の後、星野会長が登壇し「しんりのひらき」を述べた。

続いて、来賓の石倉寿一・新日本宗教団体連合会理事長が祝辞を述べた後、江口家親族と役員、来賓、信徒の順で「生命の威光様」拝受が行われた。午後7時半からは、各支部が趣向を凝らした奉納演芸が催された、14日は奉納演芸、15日には成人式も開催された。

焼香、開扉に続き、龍誓奏楽が奉納された

高揚感のある毎日　力強く訴え

立教72年祭　妙道会教団

佐原会長を導師に、先達の足跡に思いを馳せ、読経を行った

妙道会教団（佐原慶治会長）は2月4日午前10時半から、大阪市天王寺区の大聖堂で「立教72年祭」を厳修した。

本部の式典は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策として、教団理事と参与、教会長、系統長ら指名の会員のみが参列し開催され、一般会員向けには、動画共有サイト（YouTube）で中継し放映した。

祭典は修祓が行われた後、導師入場。佐原慶治会長が登壇し、献香に続いて祭文が奏上された。教団を開創した佐原忠次郎師と佐原俊江初代会長、先達導師の足跡に思いを馳せ、読経を行った。

この後、導師位授与、教会役員委嘱の儀を迎え、代表者に佐原会長から贈位書と委嘱状が手渡された。

会員代表による決意表明の後、佐原会長が「ご教示」に立った。立教から70年余りの社会の変化に言及し、信仰の意義、教団の使命を説いた上で「法華経を唱え、お題目を唱えるところに、生きる力、魂の叫びを頂戴できます。今日を機に、一人ひとりが生まれ変わった気持ちで、高揚感のある毎日を送っていただきたい」と、力強く訴えた。

聖訓・三大誓願を奉唱してご法殿が閉扉され、閉式した。

祖先、恩師、国土に報恩を

第84回太陽精神碑建立記念祭　解脱会

解脱会（本部＝東京・四谷、岡野英祥法主）は、立教95年・解脱金剛75年祭を奉祝する最初の6大行事、「第84回太陽精神碑建立記念祭」を2月11日午前8時45分から埼玉県北本市の御霊地で開催した。

太陽精神碑は1940（昭和15）年2月11日、岡野聖憲会祖（解脱金剛尊者）が地上の万物を平等に育み、与えて求めぬ太陽の心、無私大愛の精神を表象する碑として建立。解脱会では毎年、建国記念の日に式典を開催している。

午前8時45分、太神社殿前において、理事参与以上の本部役員が参列して奉告祭が行われ、開催の報告と無事完遂を祈願した。

午前9時15分、解脱金剛宝物館前において、東京第1教区、東京第6教区、東京第7教区の青年部鼓笛隊が演奏を披露した。

午前10時から、「米」「麦」「豆」「蜀黍」「粟」の五穀が供えられた太陽精神碑前において、第1部「太陽精神碑前之儀」を開催。奉告文では岡野英夫理事長が、建国以来の祖先に対する感謝と共に立教百年に向けて信仰実践することを誓った。

式典に先立ち、御霊地お山の参道正面において各鼓笛隊が演奏を披露した後、午前11時15分から、第2部「太陽精神碑建立記念祭式典」が執り行われた。

国歌と「太陽精神碑の歌」斉唱、解脱金剛尊者の御声「五法則」（録音）の拝聴に続いて、岡野理事長が「誓願文」を奏上した。

式辞では、岡野理事長が天皇陛下を中心に祖先が築いてきた歴史と民族の伝統精神を偲び、正しい愛国心を育む大切さを述べた。

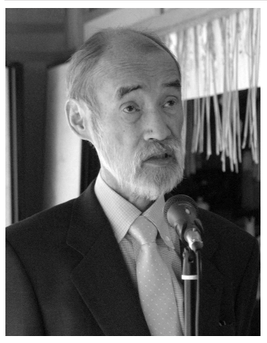
そして「人間は決して、自分自身のことのみを考えてはいけません。この足は一体どこを踏み、どこに立ちはだかっているかを考えます時、自分には、自分を生み育てた親あり、祖先あり、恩師あり、そしてこの足は実に我等の国土日本を踏んでいる報恩を忘れてはなりません」との解脱金剛尊者の「お言葉」を仰ぎ、最後に「金剛さまの魂の叫びを心に刻み、日本の建国以来の大理想と日の丸国旗に表された大日本精神を子々孫々にまで伝え、ゆるぎない盤石な国の礎をつくるべく、社会の立て直しに艱難辛苦を乗り越え不退転の覚悟で進んでまいりましょう」と強調した。

来賓祝辞の後で、会歌斉唱、万歳三唱に続けて、立教95年奉祝イベントとして、天茶、国旗、天茶飴が各支部に当たる福引が行われ、閉式した。

太陽精神碑の前で奉告文を奉上する岡野理事長

一日一日を豊かな心で
神様に手を合わせ信仰

天恩教　春季天恩祭


「御真教」を行う鉢呂教主

天恩教（鉢呂神龍教主）は3月18日午前11時半から、京都府笠置町の本庁神前で「春季天恩祭」を斎行した。

雅楽が流れる中、斎主の鉢呂神龍教主と斎員が入座。鉢呂金太郎理事長が修祓を行った後、大祓祝詞、春季大祭祝詞を奏上した。

鉢呂教主の参拝、玉串奉奠に続いて、鉢呂理事長と来賓らが玉串を奉奠した。

斎主と斎員の退座後、参列者全員で「真者祝詞」を奏上し、各教会長に続いて参列者が玉串を奉奠した。式典後、参列者は「御神酒」を拝受した。

この後「直会」に移り、鉢呂教主が「御真教」に立ち、一昨年10月に新宗連が結成70周年を迎えたこと、2月20日に開催した新宗連近畿総支部総務会について報告。「祖神様」の墓石の文字が大石秀典・新宗連初代事務局長の揮毫であることにも触れ、今後も多くの教団とのご縁を大切にし、宗教協力を図っていきたいと語った。

さらに、今年の指標である「神の國　自然の心豊かにはつらつと」となるためには、「どんなことがあっても戦争をしない、平和を願い行動することが大切です」と述べ、一人ひとりが周囲の人に感謝して生活し、親は子に、子は親に感謝して過ごすことの大切さを説いた。そして「一日一日を豊かな心で神様に手を合わせ、春季天恩祭を機により一層の信仰心をもって過ごしていただきたい」と呼びかけた。

来賓に続いて、真者を代表して山本哲也・伯母野山分教会長があいさつ。新教会長3氏の紹介があり、山本分教会長と高井保経・大阪分教会長、村上秀幸・敷名分教会長がそれぞれあいさつを述べた。

続いて、参列者全員で「天恩教真者の歌」を斉唱、万歳三唱、乾杯をし直会に入った。

直会は青年部員による「青年部の歌」の合唱で始まり、婦人部による踊りや歌などが披露され盛会となった。

新宗連 結成70周年記念事業総括式典 発言要旨

挨拶

共に手を取り合い 発展を

新宗連名誉会長 深田充啓

新宗連結成70周年記念事業総括式典に、円応教本部を会場としてお使いいただき、誠に光栄に思っております。

ただいまは先輩先生方への慰霊と感謝の誠を捧げさせていただきました。初代理事長のパーフェクト リバティー教団・御木徳近先生、二代理事長の立正佼成会・庭野日敬先生、新宗連生みの親ともいうべき大石秀典先生をはじめ、道をきり開いてくださいました先生方の並々ならぬ決意とご尽力があり、現在の新宗連がありますことに思いをはせ、誠に感慨深いものがございます。

また、結成50周年以降にご逝去されました先生方のご遺影の中に立正佼成会の庭野欽司郎先生、善隣教の力久隆積先生のお顔がございました。私はすぐさま、新宗連青年会時代のアジア懺悔行と呼ばれる東南アジア青年平和使節団の「慰霊と懺悔の旅」のことが思い出されました。私にとって、まさに活動の原点となるものでございました。

さて、戦前、宗教活動を行うことができなかった新宗教が、戦後、新憲法の下、自由に宗教活動ができるようになりました。新宗連が結成された昭和26(1951)年は、まだ戦後の混乱が続き、人心は荒廃し、多くの人々は「貧病争」に苦しめられていました。そのような中、新宗連加盟の教団は活発な布教活動を展開し、多くの人々を救済してきたのです。

先達功労者61人の写真をスクリーンに上映し、教団代表者らが順次、献花を行い、祈りを捧げた

これ以前に、すでに全日本仏教会、教派神道連合会、日本キリスト教連合会、神社本庁が組織化されていました。しかし、新宗教にはまだそのような組織がなく、当時日本を統括した連合国のウッダード博士が連合体結成を提案し、大石先生が呼び掛けた結果、新宗連が結成されたのです。

新宗連は、新宗教の連合会であると同時に、「新日本」には戦後の「新しい日本」を支えていくとの強い決意が込められていたのです。その後、新宗連は活動体としての性格を強めており、その対応のため、昭和52(1977)年、企画委員会が結成され、初代委員長として、私が就任させていただきました。就任後、全国の総支部結成、核兵器廃絶の署名運動などをさせていただきました。

そして平成8(1996)年3月、松緑神道大和山・田澤康三郎先生の後を受けて、私が四代理事長に就任させていただきました。前年の平成7(1995)年1月には阪神・淡路大震災が起こり、若い世代のボランティアが大活躍しました。その一方、オウム真理教の地下鉄サリン事件など、宗教に対する不信といった風潮が社会に広まりました。

私は宗教の社会的使命を果たすために、新宗連の加盟教団の結束が必要と考えました。それも社会に深く根ざしたものでなければならないし、そのためには都府県・地区協議会の役割が大きいと実感しました。

そして平成15(2003)年7月、滋賀県協議会の結成により、56都府県・地区協議会の全国組織が出来上がったのです。

理事長在任中の平成13(2001)年に結成50周年を迎えましたが、大きな願いは「宗教の信頼醸成」ということでございました。今また、旧統一教会問題をめぐって、宗教を拒否する状況は当時と同様、いやそれ以上でありましょう。

幸い私の後、理事長は立正佼成会・庭野日鑛先生、解脱会・故岡野聖法先生、大和教団・保積秀胤先生、崇教眞光・岡田光央先生、そして昨年6月、九代理事長に大慧會教団・石倉寿一先生へと受け継がれ、新宗連の活動も微動だにすることなく、社会への働きかけも継続、実践されています。

本日発表される将来計画は、次の10年だけではなく、100周年に向けた礎になるものと存じます。

共々に手を取り合って新宗連、加盟教団のますますの発展に務め、世界平和を進めてまいりましょう。

来賓祝辞

世界で信頼得ることに期待

日本宗教連盟理事長 宍野史生

日本宗教連盟を代表して、一言、お祝いを申し上げたいと存じます。

貴会は令和3(2021)年10月に70周年を迎えられましたが、新型コロナウイルス禍という社会的な困難を乗り越え、一連の周年記念事業が行われ、本日ここに総括としての式典が開催されますことを心より御祝いを申し上げます。

「今、そして未来につなぐ信仰の力と光」をメインテーマに記念事業として行われたさまざまな行事、特に「鎮魂の祈りの巡礼」は、昨年4月から感染症対策を講じながらの実施でありながらも、石倉理事長はじめ、多くの方々が丁寧に行ってきたとうかがっております。

理事長の言葉には「『慰霊』や『平和祈願』は私たち宗教者だからこそできる尊い使命」と述べられています。私たちは、その皆様のお姿から人々とふれあい、寄り添い、顔を合わせて対話することがいかに大切であるか―を改めて思い知らされました。

70年前に、このともしびを高く掲げられた先輩・先人の先生方が信仰者の使命である「祈り」を通して、過去の歴史に真正面から向き合い、忌まわしい戦争や、厳しい災害の風化を防ぎ、新たな争いは決して許さないという切なる不屈の魂を示されました。皆様が70年の歴史の中で大切にされてきたことをもとに、4つのスローガンが掲げられたというふうにも伺っております。

日本宗教連盟を代表して、その皆様方の活動にあらためて深甚なる感謝と、そして敬意を表します。さらに本日を契機として未来へのあらたな使命に向けて、皆様が進まれんことを切に願っております。

70年というと、人で言うと古希でございます。正に円熟を重ねた時であります。新しい日本をつくり、そして、その日本を支えるために新宗連は結成された、と先ほど深田名誉会長のお言葉であらためて伺いました。古希で円熟を増していますので、これからはきっと世界の中で信頼を得る、信じられる「信・日本」を支えられる皆様方と私は強く感じ、そして期待します。

同時に日本宗教連盟は5連合会で結成されておりますが、互いにまずは私たちが手を取り合って、支え合って、一歩一歩を進めていきたいと感じました。

どうかこれからも皆様と共に歩ませていただきたい。そのお願いも含めて、本日のお祝いの一言とさせていただきます。

未来への期待

宗教が必要とされる社会 目指す

国際宗教研究所理事長 島薗進

新宗連の結成70周年記念事業の総括式典、おめでとうございます。

私はこれまで74年の人生の3分の2くらいは新宗教の研究をしています。今日、物故者の方々のお顔を拝見し、本当にお世話になった沢山の方々に懐かしい思いがいたします。大石秀典さん(新宗連初代事務局長)には本当にいろいろ教えていただきました。私が一番熱心に研究させていただいたのは修養団捧誠会で、出居茂さん(同会第三代総裁)のお顔も拝見しました。

新宗連の4つのスローガンは、未だにやはり新しいと思います。つまり現代社会と宗教が持っている課題というのを、新宗連はずっと担い続けてきていると考えてもいいのではないでしょうか。新宗連結成のきっかけをつくったウッダードさんは、非常に先見の明があった方で、国際宗教研究所も彼の肝いりで出来ております。アメリカ人ですが日本の状況をよく見られて、世界の宗教の未来を見ながら、新宗連は必要だということを察知されたと思います。

私は青年会の「8・14式典」も参加させていただいております。各教団それぞれに祈るあの祈りの在り方、これはその当時、非常に斬新だったかもしれませんけれども、今、世界的に見て必要なことになってきています。日本は宗教集団が多様であり、その中で協力することが自然です。その中には異質性をよく理解し合いながら支え合っていくという機運が非常に熟してきたのです。

オウム真理教事件や今回の旧統一教会の問題で繰り返し問われている、宗教と社会の良い関係の在り方、そして本来の宗教信仰ってなんだということを多様なものが相互に交流しながら磨き合って考えていく。そういう中で、やはり宗教が社会のためになくてはならない、そういう社会の在り方を目指していく。それが新宗連の課題であり、私ども国際宗教研究所の課題でもあると思っております。

すばらしい先人の方々のお仕事を振り返りつつ、今後の歩みを展望されるこの70周年の集いは、良い機会を作られたと思っております。多様な信仰が共存するという今後の世界の状況を日本が先取りしている面からも、誇り高く素晴らしい「新宗連の歌」もしみじみとうかがわせていただきましたが、そうした精神が今後も深められながら広がっていくことを願っております。

宗教協力をもとに平和実践を

世界宗教者平和会議日本委員会理事長 戸松義晴

新宗連がこの度、結成70周年を迎えられ、記念事業の総括式典を開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

新宗連は、人々の安らぎと安寧のために尽力する新宗教教団の結束をもって結成され、戦後日本の精神世界の復興を目指し、宗教協力の推進と信教の自由の堅持を柱とし、世界平和の実現と人類福祉の増進に向けた、地道で着実な活動を展開してこられました。

その多様で幅広い活動の中で、毎年8月14日、国立千鳥ケ淵戦没者墓苑で開催される「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」は、世界平和のために加盟教団が心を一つにして祈る場であります。このたゆまない継続的な祈りこそ、すべての活動において祈りを中心におくという結成以来、新宗連が大切にしてきた宗教者としての姿勢を現すものであり、心から敬服の念を抱く次第でございます。

さて、現在の世の中を見渡しますと多くの問題が存在しております。世界ではウクライナをはじめとする戦争が絶え間なく起き、極端な経済格差によって貧困状況が悪化し、気候危機も深刻さを増しております。国内においても家族や地域などにおける人と人との関係が希薄になり孤立化が進み、特に生活困窮者などの社会的弱者と呼ばれる方々を厳しい状況に追い込むようになっております。

今求められておりますのは「分断」する世界から「和解」する世界へ、「孤立」する社会から「包摂」する社会への実現であります。このような時だからこそ、新宗連の「信教の自由を守ろう・信仰心を広めよう・宗教協力を進めよう・世界の平和に貢献しよう」という4つのスローガンが、ますます重要な意味を持つものと信じます。

私ども世界宗教者平和会議、WCRPは一昨年50周年を迎えましたが、創設時から今日にいたるまで、新宗連より多大なご協力・ご支援を頂いてまいりました。新宗連がWCRPの生みの親であり、新宗連なくしてWCRPは存在しなかったと言えるのです。その意味で、これからも新宗連の皆様方には、WCRPへのご指導・ご教導をお願い申し上げる次第でございます。WCRPも、新宗連の皆様と共に、一人ひとりが明るく未来に希望を抱ける世界の実現を目指し、宗教協力をもとにした平和実践を力強く行っている所存でございます。

未来への期待

世界で信頼得ることに期待

新宗連顧問 岡田光央

大変感慨深いものがございます。結成70周年の総括式典をようやく今日、深田名誉会長のお膝元で開くことができました。この場所で皆様と共に記念のお祝いができ、大変ありがたく存じています。

未来ということになりますと、これから石倉先生、またその他の先生方が協力してなさると思います。

私は短い期間ですが、新宗連理事長を務めさせていただいて実感したのは、常務理事、理事、評議員の私より10歳位若い人たちの中に素晴らしい未来の日本を支える方々がいるということ。未来の光、核となる教団の方々、新宗連の未来を支えるのみでなく、日本と世界の平和の礎になる方々がたくさんおられることは、本当に素晴らしいと思っています。

伝教大師は一隅を照らす光とおっしゃいましたが、これから日本を照らす光、世界を照らす光になる。今それが求められていると思います。新宗連の未来への構想に期待します。

式辞

使命と目標に向かい善進

新宗連理事長 石倉寿一

本日、新日本宗教団体連合会の結成70周年記念事業総括式典にあたり、新宗連の基礎を築いてくださった歴代理事長をはじめ、先達功労者に報恩感謝の誠を捧げ、未来に向けて誓いを新たにする機会を頂戴いたしました。

新宗連の名称にある「新」の文字は、単に「新しい」という意味だけでなく、常に新たなことに挑戦していくという求道の精神が込められています。この新しい宗教運動に対する気概、気迫を持って新宗連の歩みは始まりました。

特に、戦後という時代の要求に応えて、悩み苦しむ人々の心の安寧、精神復興に全力を注ぐとともに、生々しい戦争体験から、平和創造の使徒たる自覚と決意を共通の使命として結束し、前進を続けてきました。

各教団が急成長していく過程においては、世間やマスコミから批判や中傷を受けることもありました。宗教に対する不信や逆風は現在に続くものもありますが、新宗連はこうした逆風にも耐え、成長、改善の糧として真摯に向き合い続けてきました。先達のご努力により築かれた地盤の上に、現在の新宗連があります。その先達が築いてくださった地盤を、これからも揺るぎないものにしていくために、私たちに課せられた使命はなんでしょうか。

現在は結成時に比べ、人々の苦悩も多様化しています。神仏との出遭い方、信仰的な感動や目覚め、成長のタイミングは一人ひとりの信教の自由、信仰の深化に丁寧に寄り添い、共に歩んでいく。日々の宗教活動の中で、一人ひとりの神仏との出遭いの場をしっかりと育んでいくことが、より重要であると感じております。

本日の総括式典の開催日が決まりました時、レミオロメンというロックグループの『3月9日』という曲が、私の頭に浮かびました。この曲の中心となるサビの部分で、私が大変感銘を受けた歌詞があります。それは、「瞳を閉じれば あなたが まぶたのうらにいることで どれほど強くなれたでしょう あなたにとって私もそうでありたい」という歌詞です。歌詞にある「あなた」は、きっと身近にいる大切な誰かを思い浮かべたものであると思います。

私独自の解釈となりますが、歌詞の「あなた」を、私たちがそれぞれに仰ぐ「神仏」と捉えますと、瞳を閉じたまぶたの裏に想像する「神仏」の存在を感じて、強くなれる、安心することが人生の中で多々あったことを回想しました。

また、その後に続く「あなたにとって私もそうでありたい」という歌詞も、神仏から力や光を頂戴した私たち信仰者が、悩み苦しむ人々に手を差し伸べていく姿と重なりました。結成70周年テーマは「今、そして未来につなぐ信仰の力と光」です。このテーマにもつながる曲であるとも感じています。

これから信仰を継承する若い方々に、神仏の存在を感じるような体験を積み、信仰を糧として力強く人生を歩み、一人ひとりが、その尊き使命を成就できるよう励んでまいりたいと存じます。この『3月9日』という曲を、私の「信仰継承」という想いで歌わせていただきます。

結成70周年記念事業総括式典の節目にあたり、あらためて、皆様と手を取り合い、使命と目標に向かって善進させていただくことをここにお誓い申し上げ、式辞といたします。

「新宗連将来計画」を発表する、70周年特別委員会委員の宮本泰克氏㊧と岡野孝行氏㊨

新宗連将来計画

新宗連スローガンの現代的意義の確認と未来への継承

信教の自由を守ろう

- 「信教の自由」は基本的人権の根幹である。
- 「信教の自由」は宗教活動に不可欠である。
- 「信教の自由」はあらゆる宗教を互いに尊重し合うことを意味している。
- 「信教の自由」は信仰を強制されない自由をも含んでいる。
- 「信教の自由」の保障には、政教分離原則が貫かれていなければならない。
- 「信教の自由」と「政教分離」は密接不可分である。
- 「信教の自由」を守るためには敢然として行動する。

信仰心を広めよう

- 「信仰心」を広めることは、私たちの使命であるとの信念において共通している。
- 「信仰心」は一人ひとりの「信教の自由」の上に成立している。
- 「信仰心」の涵養は一人ひとりの「信教の自由」を尊重することから始まる。
- 新宗連が志向する「信仰心」の涵養とは、一人ひとりの心の安寧、苦悩からの救済をはじめ、感謝、歓喜、報恩、利他の人生へと導くことである。
- 新宗連が志向する「信仰心」の涵養とは、日々の礼拝等、生活に根差した信仰実践を勧めることにより、倫理や道徳では補えない、心の奥底の浄化と全人的救済へ導くことである。
- 新宗連が志向する「信仰心」の涵養とは、一人ひとりが宗教的感性と人格を磨き、信仰による感謝と感動を広げることを通じて、より良い社会の形成に貢献することである。

宗教協力を進めよう

- 信教の自由を遵守し、一人ひとりの信仰心を涵養して、世界平和に貢献するためには、宗教者あるいは宗教教団相互の理解と協力が必要不可欠である。
- すべての宗教は、その成り立ち、教義や儀礼、布教や教化の仕方など、形の上において異なるが、その本質、目指すべきところを各自が研鑽するとともに、対話を通じて相互理解を図り、協力、連携を進めていく。
- 宗教協力と対話を促進することにより、宗教が陥りやすい閉鎖性、独断性を抑制するとともに、相互に磨き合い、高め合い、社会に貢献していく。
- 新宗連の掲げる宗教協力は、宗教間の相互理解のための対話促進・霊性交流・相互学習などを含んでいる。

世界の平和に貢献しよう

- 新宗連の究極目的は、宗教協力を通じて人類福祉と世界平和に貢献することである。
- 新宗連が目指す世界平和への第一義は、「信教の自由」精神と「信仰心」の涵養を通して「平和を希求し、祈り、行動する人」を育てることである。
- 世界平和を招来するためには、国内外のあらゆる戦争犠牲者への慰霊と鎮魂が必要不可欠であるとの信念において共通している。
- 世界平和は、地域レベルの平和から国際的レベルの平和を含んでいる。
- 世界平和に貢献するために、生命、人権、環境、軍縮、貧困など、平和構築の条件となる諸問題に目を向け、宗教者としての取り組みを探求する。